

3. 中心市街地・生活中心街の将来像

3. 1 中心市街地・生活中心街の将来像



息子(高校生)「府中市のまちなかの成り立ちはわかったけど、これから先どんなまちが必要になるのかなあ？」



母(40代)「どんなまちになれば、住みやすく、色々な人が訪れてくれる魅力あるまちになるのか考えてみるといいんじゃないかしら。」



娘(20代)「そうだね、エリアごとにどんな過ごし方ができると楽しい場所になるか考えてみようよ。」

グランドデザインの背景と目的や中心市街地・生活中心街の特性を受けて、また、これまでの都市再生の取組の状況等を踏まえ、新たな局面を迎えた地方都市のまちづくりに対応し、地域の新たな価値を創造するための将来像を以下のとおり掲げます。

■将来像

府中の本物(まんなか)を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち

【主 旨】

中心市街地・生活中心街には、備後国府時代から近代・近世に至る歴史・文化的価値の高い遺跡や古民家等の資源が数多く残っていると同時に、まち全体にもそうした時代の風情が閉じ込められています。しかし、その反面、歴史的・文化的資源がその価値を活かしきれず放置されていることに加え、都市部への人口の流出等も相まって、まちなかに遊休不動産が点在し、時代の風情が失われている状況です。

本市では、リノベーション先進都市として、歴史・文化的価値の高い古民家やまちなみの価値、風情を後世に継承しつつ、時代ニーズに合った活用しやすい用途・機能へと転換を図るなど、他の地域にはない『府中の本物(まんなか)』を感じさせる、“古さ”と“新しさ”が融合するリノベーションまちづくりを実践します。

また、本市には“オンリーワン・ナンバーワン企業”と言われる県内屈指のものづくり企業が数多くあります。そうした企業は、本市の経済・社会を長きにわたり支える地場産業であるとともに、“ものづくりのまち府中”のシンボルとして、現在も様々なものづくりを活発に行っています。そのため、今後も中心市街地・生活中心街のまちなみに、“様々な”ものづくりの機能を位置づけたリノベーションまちづくりを展開します。

これらの備後国府としての歴史や職人が支えるものづくり都市としての発展の歴史等を本市の強みとして確実に将来に継承するとともに、時代に合わせた先進的な技術を新たに取り込むことによって、市民と来街者が府中の本物(まんなか)を感じ、府中を楽しみ、暮らせるまちなかを実現します。

3. 2 目指すまちの姿

中心市街地・生活中心街の将来像を踏まえ、どのようなまちになっていたらよいか、“府中”というまちが形成されてきた歴史的背景や産業発展の背景を今後のまちづくりの根底に据えつつ、“市民の暮らしやすさ”と“来街者や活動団体・観光客が訪れ歩きたくなる中心市街地・生活中心街”といった視点から、あらゆる世代・性別・立場からみた目指すまちの姿のイメージを描きます。

(1) 目指すまちの姿

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち

生活に必要な機能等が駅周辺に集積し、道路や公共交通機関で結ばれることで、中心市街地を含む都市全体で住みやすく、快適な生活空間が形成され、人々は仕事と趣味を両立した日常生活を満足し、ゆったりと過ごしています。

また、行政と市民、民間企業が連携した取組が進み、職住遊が近接した暮らしの中で多世代が活発に交流し、子どもから高齢者まで誰もがアイデンティティを感じ、他にはない府中の魅力・府中暮らしを満喫し、楽しんでいます。

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ ビジネス活動がアクティブなまち

市民・活動団体等によってなされる小さなまちづくり活動の積み重ねや多様な立場の人による技術やアイデア、知識等の組み合わせ、歴史やものづくりを活かしたリノベーションまちづくりにより、ものづくり体験や見学など身近に感じられるイベント開催を通じて、ものづくりのまちを楽しみ、古くから残されているまちなみをどこか懐かしく感じて歩いてみたくなる空間が形成されています。

また、多様な年齢・立場の多くの来街者や国内外問わず観光客が集い、交流・滞在する場が創出されるとともに、中心市街地・生活中心街における活動やイベント、移動が活発に感じられるまちとなっています。さらに、地方へのオフィス移転等も進み、ビジネス活動が活発になっています。

(2) 人々の過ごし方（将来イメージ）

2章で示した価値の創出に向けた地区の考え方に基づき、目指すまちの姿について、中心市街地・生活中心街における、それぞれの場所ごとに、概ね20～30年後の「市民の過ごし方」、「訪れる人々や受け入れる人々」の活動・交流など過ごし方のイメージを示します。

府中駅周辺地区

市民の将来の過ごし方

○駅と道の駅が一体となった交流広場で人々がゆったり過ごす

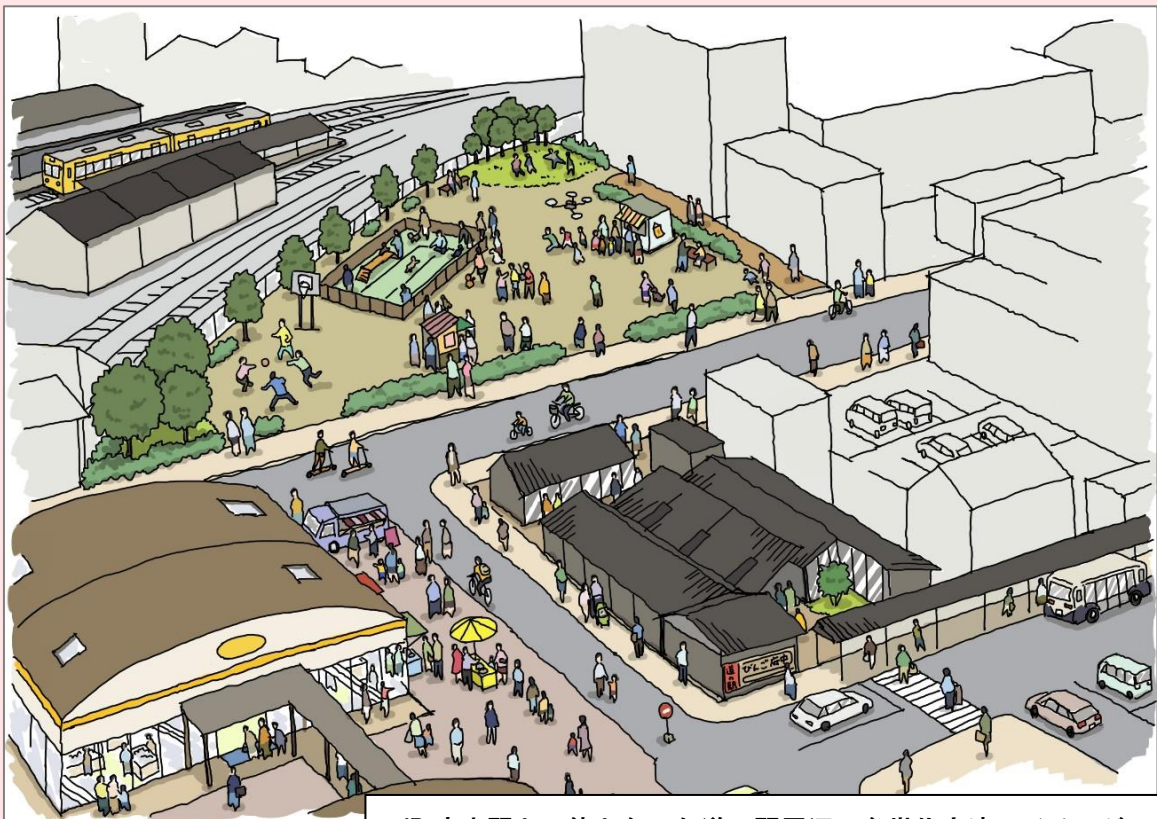
駅の南側では、道の駅が駅周辺の核となる施設としてリニューアルされ、その周辺にフットサル、ストリートバスケ等ができる広場が整備された。人々がくつろげる交流広場も整備され、移動販売車などが広場横に並び、気軽に軽食・カフェを楽しみながら、広場で多くの人々が談笑している。さらには、年に数回、ものづくり都市の象徴イベントとして、ドローンレース大会が開催されている

○健康で快適な生活環境となっている

高齢者にとっても住みやすく豊かな生活を送ることのできる環境がつくられ、何不自由なく趣味や地域活動等に没頭し、一日をゆったりと快適に暮らしている。このような環境がつくられたことで、外出機会も増え、いきいきと過ごしている

○駅周辺を中心として、多世代が活発に交流

生まれ変わったJR府中駅の周辺には、大型商業施設と連携した賑わい施設とともに、健康増進施設や子育て支援施設などが立地している。高齢者や子育て世代が日常的に利用し、世代間交流が活発に行われている

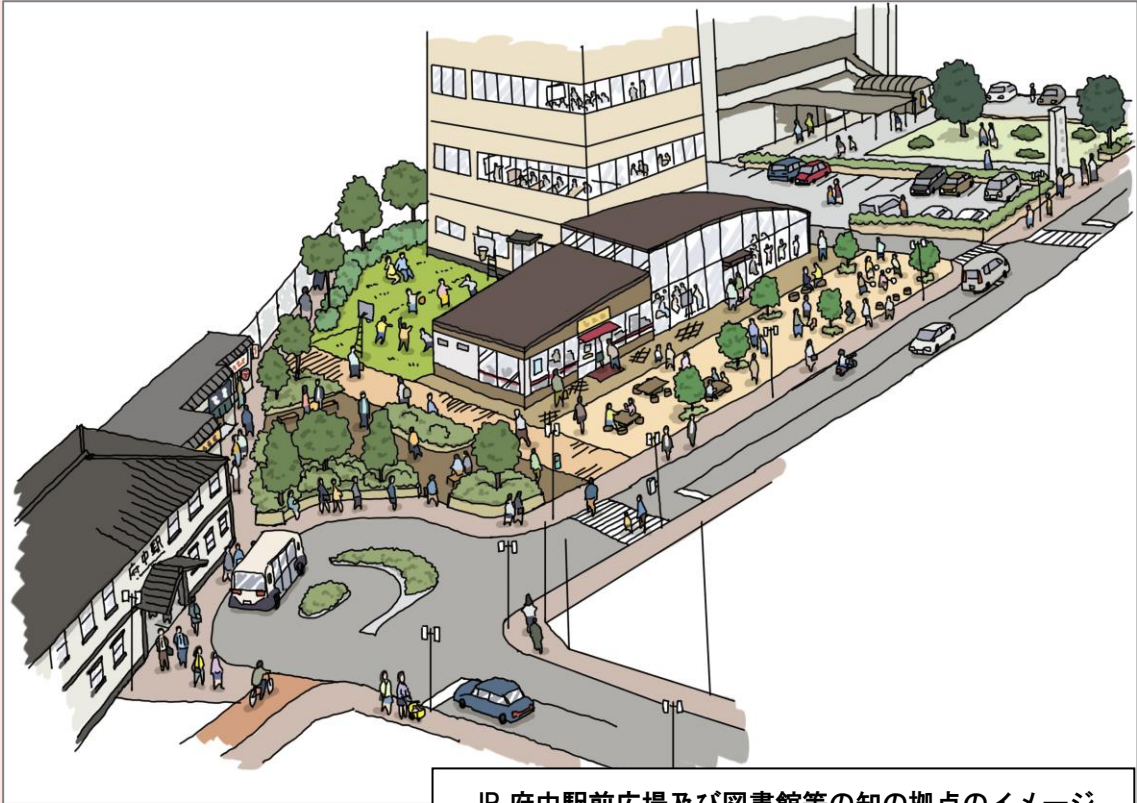


JR 府中駅と一体となった道の駅周辺の多世代交流のイメージ

府中駅周辺地区

○仕事終わりに趣味や飲食等を楽しみ交流する

駅周辺の空きビル等を活用して、居心地のよい統一された建物が立地し、出張のサラリーマン等が新しい生活様式に合わせた働き方として、コワーキングスペース、ワーケーションなどの様々な形態を活用しているなど、府中でのビジネスが拡大している。また、商店街のリノベーションも進み、まちなかで働く市民が仕事終わりにふらっと趣味やジム等に没頭し、飲食等のアフターファイブを楽しんで交流している



JR 府中駅前広場及び図書館等の知の拠点のイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○JR 府中駅のリニューアルと交通結節機能の向上

JR 府中駅が、まちの顔として相応しい駅舎として生まれ変わり、公共公益施設、商業施設等の集積・複合化が進んでいる。また、子育て世代をはじめ、来街者やまちなかに近い住宅地に居住する人々にとっても快適な次世代モビリティを含めた交通環境が充実することで移動が便利になり、産業活動も活発になっている

○地元企業等によるイベントやセミナーで学生や高齢者等が交流

駅周辺では、空きビル等を活用して、ICT 等の先進技術を活用したイベントやセミナーが開かれ、地元企業やまちづくり活動団体等と学生や高齢者等が交流し、大学と連携した次世代の担い手を生み出す“学び・知の拠点”となっている

○ものづくり府中のイメージが広く浸透

多様で特色のあるものづくりの現場を広く来街者や市民に開放し、子どもたちをはじめ、誰もが地元企業のもので技術に親しみを持ってもらい、ものづくりの良さ、府中というまちの良さについて日本中に発信している

○国府のあったまち、ものづくりのまちであることを肌で感じる

来街者が駅を降りてすぐ、国府のあったまちであることや、ものづくりが盛んなまちであることを肌で感じるこのできる、シンボル性の高い拠点となっている

市民の将来の過ごし方

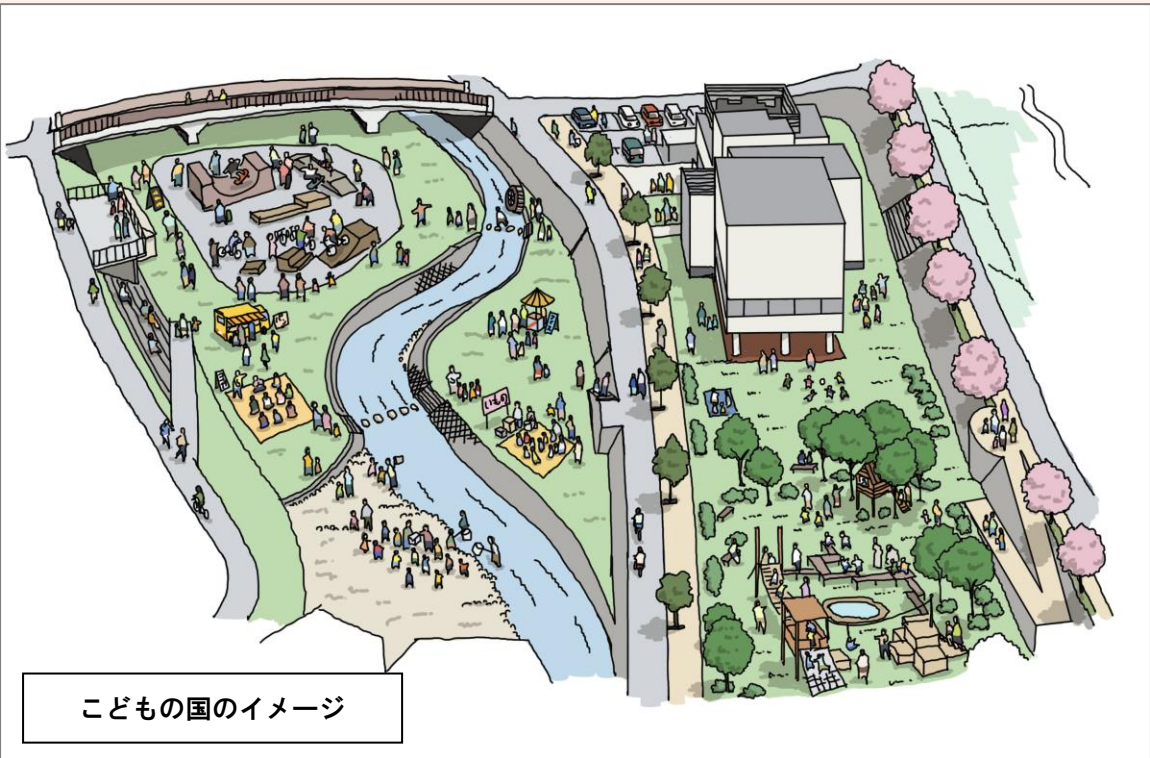
○平日・休日ともにアウトドアを満喫する市民が増えている

こどもの国では、今以上に人気が出ている。施設とその周辺を一体的にリニューアルし、子どもやその親たちが平日・休日も集まり、アウトドアやアスレチック等を楽しんでいる。

府中市こどもの国を目的に訪れた人が、府中を満喫して帰るため、駅周辺エリア等にも足を運び楽しんでいる

○水辺と親しむ子どもや河川空間をウォーキング等で活用する市民が増えている

河川敷ではかわまちづくりが進み、水辺と親しむ遊びを通じて遊びの幅を広げ、環境学習なども行われている。今の大人たちが子どもの頃楽しんでいた遊びを、今は子どもたちが、同じように楽しんでいる。学校での教育だけでなく、自然を通じて学ぶ知識により、生活力を身につけ、心と体を成長させることにより、社会を生き抜く力を育むとともに、ふるさとに誇りや愛着を持った人づくりが進んでいる。また、高齢者をはじめとして、健康志向の高まりに合わせて、気持ちの良い空間でウォーキングやジョギング、犬の散歩などで大いに活用されている



こどもの国のイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○週末に府中の自然やスポーツを満喫する来街者が増え、にぎわっている

週末や連休には、かわまちづくり整備が進んだ河川敷に、アーバンスポーツ、お手軽なアウトドア、アスレチック等を含めた新たなスポーツを楽しむ人々が市外からも沢山訪れ、賑わっている、また、トップアスリートとの交流が活発に行われ、スポーツが日常の一部となっている

○駅周辺などからも府中市こどもの国を利用する来街者が増え、府中を楽しんでいる

府中市こどもの国を訪れる市外の家族連れ、周辺の都市から遠足に来る子どもたち、河川敷で楽しむ人々も循環バスやPOM小路を介して足を運んでいる

市民の将来の過ごし方

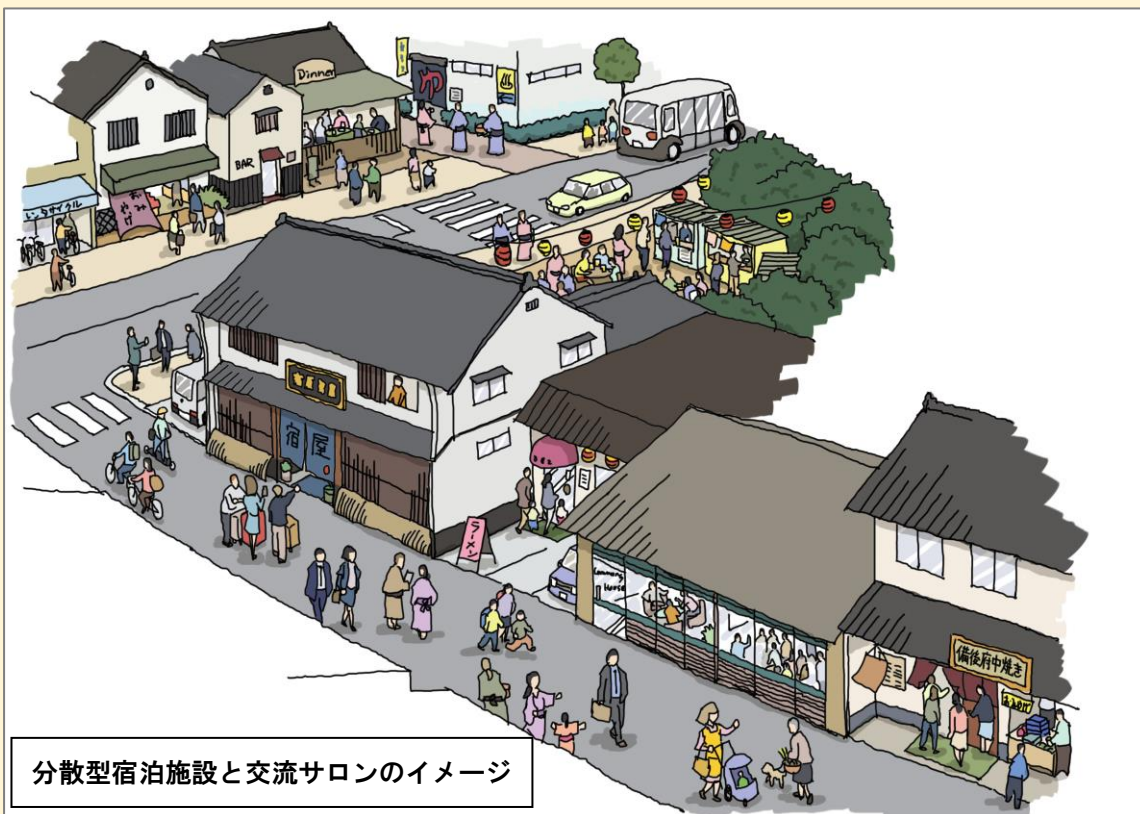
○職住遊近接で充実した暮らしを送る移住者が増えている

府中学園を中心に、コミュニティスクールにより地域とともにある学校づくりが定着し、地域（産業）に密着した先進の教育が受けられると評判になっている。空き家は増えたが、生活機能も地域で維持されていることから、移住してくる子育て世代も増えた。その子どもたちが府中学園に通っている。職住遊近接であることに加え、ICT 等を活用したテレワークや生活が便利になったことで、仕事や子育ての空いた時間で趣味を活かした集まりなどに参加し、来街者を交えた地域コミュニティが活発になっている

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○宿泊施設や交流サロンへのリノベーションにより外国人宿泊客が増えている

恋しきという府中市の近代を語る歴史的な建造物が周辺の古民家などのまちなみと一体的に活用されるとともに、古民家をリノベーションした分散型宿泊施設が何軒か立地し、国内はもちろん、インバウンド外国人も多く滞在するようになった。当該宿泊施設は、宿泊機能のみを備え、食事や風呂は駅周辺等のまちなかで楽しんでもらうことをコンセプトとしており、慣れない浴衣姿で歩く外国人が増えたことで、中心市街地・生活中心街全体を滞在者がそぞろ歩きするようになった。また、夜が明けて翌日には、出口地区の古民家をリノベーションした交流サロンで、地域の子どもたちと時々日本語を交えながら、英語による会話・交流が生まれている



分散型宿泊施設と交流サロンのイメージ

出口地区～本町商店街周辺地区

○来街者によるものづくり体験と地域の活動の融合

本通り商店街や石州街道周辺では、日本文化やものづくり技術を体験できる店舗等や土産店が並び、来街者の体験とそれを受け入れる地域の人々の活動が融合し、来街者にとってレトロで世界観のある楽しい空間に生まれ変わった。観光客が皆、府中を体感し、府中ならではのお土産を手に楽しそうに帰っている

○郡役所の多目的利用によって多くの人々の滞留・交流が活発になっている

郡役所や恋しきという府中市の近代を語る歴史的な建造物が市民や来街者に日常的に府中の近代を目や耳に、肌で感じることのできる施設として再生され、府中の文化的中心エリアが創出されている。特に郡役所は、府中市の特性の一つである“ものづくり文化や起業精神”をテーマとした学びの施設となり注目を集めている。また、移築した郡役所周辺には、人々がくつろぎ、滞留・交流できる文化的な活動のできる場所として認知され、そこで展開されている交流イベントやパブリックビューイング、映画鑑賞等を目的に地域住民や来街者が日常的に使っている

○空き家等を活用したギャラリーやウォールアートを楽しむ人が増え回遊性が向上している

商店街を中心に空き家・空き店舗等を活用して、地域の子どもたちを中心とした絵画・ポスターが展示され、街路では美大生や芸術家によって巧みなウォールアートが描かれている。JR 府中駅等からレンタサイクルで、当該地区のまちなみを快適に回遊する来街者が増えた。また、多くの来街者や地域住民等がこれらのアートを楽しむため歩いて回遊するようになったことで、空き家・空き店舗等のリノベーションがさらに進み、カフェや飲食店に生まれ変わり、アクティビティが感じられる中心市街地・生活中心街となっている



ものづくり工房とアートのイメージ

はじまりの広場～備後国府跡周辺地区

市民の将来の過ごし方

○史跡の内容がわかりやすく伝わるよう史跡公園が整備され、日常的に利用されている

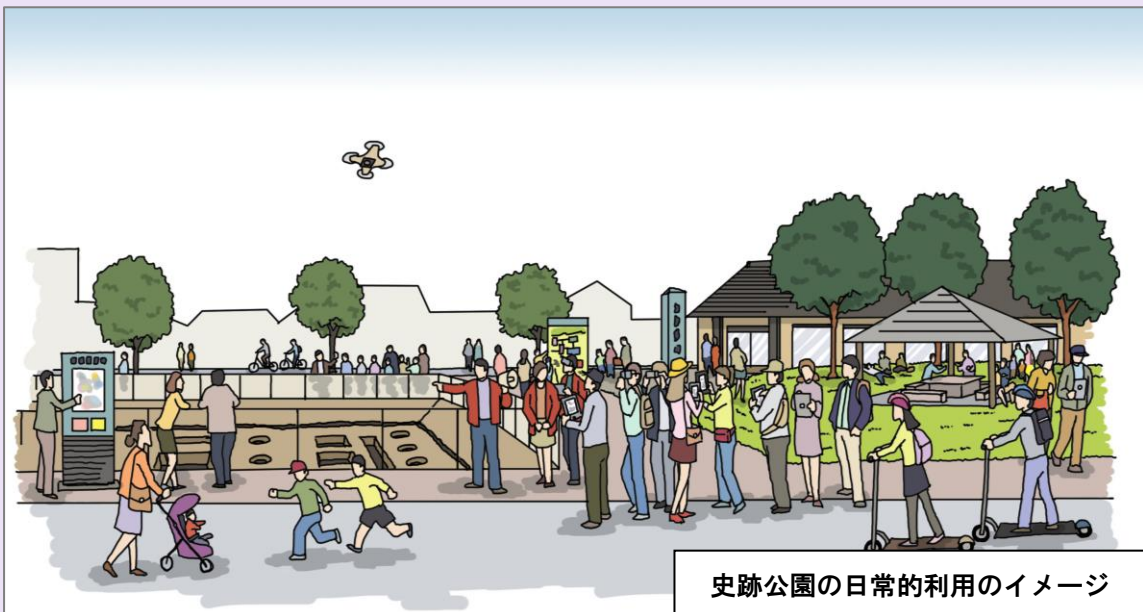
「史跡備後国府跡」のある場所は、史跡公園として整備され、市民や子どもたちの学習の場やイベント、遊び場として日常的に活用されている

○発掘調査の見学会や体験イベントが好評になっている

史跡指定地外の発掘調査は継続しており、調査の見学会や、子どもたちや市民を対象にした発掘体験イベントが好評である

○市史が編さんされ、多くの市民が府中市の歴史を語れるようになっている

近年配布された市史を編さんした冊子は分かりやすいと好評で、備後国府の時代をはじめ府中の歴史・文化に対する市民の理解が進み、子どもたちを中心に、ほとんどの市民が地域の歴史を語ることができるようになった



史跡公園の日常的利用のイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○史跡の内容がわかりやすく伝わるよう史跡公園が整備され、多くの来街者が訪れている

備後国府跡周辺では、国府跡の保存とともに史跡公園が整備され、多くの来街者がイベント等として日常的に活用されている

○福山・府中エリアの歴史文化をたどるツーリズムが人気となっている

福山湾岸から府中市域を舞台に展開された古代・中世の歴史・文化(鞆の浦や福山湾岸の遺跡、さらに備後国分寺や古代山陽道、神辺城跡や相方城跡など)をたどるツーリズムが盛んになっていて、市内観光との相乗効果を上げている

○府中の歴史等を伝えるガイド活動が盛んになり、わかりやすい内容が人気になっている

府中の歴史・文化・観光地を案内し情報を伝えるガイド団体の活動が盛んで、地域ならではの詳細で分かりやすい内容が人気になっている